

特別支援学校整備事業 基本計画策定支援業務委託プロポーザル 一次審査 概要

○若槻養護学校 意見交換	
【参加者1】A者	
委員意見	<p>意欲的に取り組んでおり、敷地内の森の利用や既存運動場を尊重するなど、印象に残る提案である。また、工事中の安全性や静音性を大事にするとともに、のぞみ部の病院とのアクセスも配慮がある。</p> <p>一方で、平面構成と断面構成が矛盾なく整合しているかが判別しにくく、若槻養護学校の現実を踏まえたリアリティある全体像も掴み難かった。また、オープンな空間構成は魅力的である一方で、子ども達の学びとの関係、データの管理に神経を払わなければならない職員室執務との整合などについても懸念が指摘された。</p>
【参加者2】B者	
委員意見	<p>敷地北側の豊かな緑を取り込む断面の提案は魅力的であり、好感を持って受け止められた。その一方、それ以外の図や写真は、大空間を作ろうという設計者の意図が強く、子どもたちに落ち着いた環境を提供しなければならない本事業の使命との整合について不明瞭な部分が多い。同様に、情報環境の提案についても時機を得たものと評価出来るが、その現実性について踏み込んだ分析が十分で無いなど、特別支援学校の特殊性がどこまで配慮されているかについては課題が残された。</p>
【参加者3】C者	
委員意見	<p>エキザンプラーを丁寧に読み込んで、教育と空間の関係性もわかりやすく説明されている。子ども達が学んでいる時だけでなく、調子が悪いときの過ごし方も提示があり、子どもを中心に置く設計者の考えが伝わる提案である。</p> <p>一方で、配置図で示された各棟のフットプリントが小さいように思われ、要求面積が収まっているか心配である。また、片廊下教室型のような平面が示されており、オープンスペース（FLA）の使われ方に対する空間的な提案が弱いように感じられた。福祉的な配慮に満ちていることは評価したいが、学びが中核となる空間であり、それを超えていくことが望まれている中で、どれくらい力を発揮してくれるのか改めて確認したいという思いもある。</p>
【参加者4】D者	
委員意見	<p>学校や地域の状況について丁寧に調べてあり、好感が持てる提案である。言葉の選び方やユニット制の採用など、当該施設に対するリテラシーの高さを読み取れるが、実際には障がいによる整理などで一層の工夫が必要と思われる。小中・高等学校とは性格が異なる本施設では、FLAや重ね使いといった想定が、どう機能するのは踏み込んだ議論が必要となる。さらには、提案のコアとなる空間（ワカバモールなど）のスケールや使い方についてもより具体的な提示が期待される。</p>

【参加者5】E者	
委員意見	<p>教室まわりの考え方などについては、丁寧な提示がなされている。その一方で、施設全体のボリューム感が大きいため、森へ繋がる敷地環境にフィットするかは課題であり、中央エントランスへのアクセスにおける人工的な造作にも懸念がある。</p> <p>インクルーシブ、セパレートの用語の使い方が、一般的な使い方とは違うように思うので整理いただきたい。</p>

○審議経過	
発言者	内 容
委員長	・5案について議論しましたが、2次にふさわしくない者がいなければ、5者を2次審査の対象としたいと思うがいかが。
委員	異議なし
委員長	<p>本日の一次審査では、次の5者（五十音・アルファベット順）を通過とする。</p> <p>株式会社エーシーエ設計 千倉平設計共同体 株式会社宮本忠長建築設計事務所 株式会社COA NASCA+Eureka共同企業体</p>

○松本養護学校 意見交換<投票前>

【参加者1】F者

委員意見

第一期工事と第二期工事の校舎がうまく併存した形であると思われる。土地利用や施設プラン、構造までが丁寧に考えられている。さらには、オープンな部分と静かな部分の強弱をつける要求を有する本施設型において、閉じた空間と開けた空間が並置されており、音に敏感な児童生徒についても配慮があることは評価できる。

特別支援学校を計画した実績があるからか、空間を具体的にイメージした上で提案がなされており、スケールのバランスや全体の明快な作り方も適切である。

雄大な環境の中にある学校なので、近隣の小学校、公民館、福祉センターと良い関係が築けるかがポイントであるが、提案のグラウンド位置は、小学校との交流が具体的にイメージしにくいものになっている。また、畑として使われている敷地の南端の部分に寄宿舎を建てる提案となっている点についても懸念が示された。

【参加者2】G者

委員意見

見通しが良くアクセスしやすい全体構成、トイレまわりの空間など、先生方の使いやすさに配慮がされている。落ち着けるゾーンがあったり、外の通路を傘なしで濡れずに移動したり、子どもの特性に寄り沿いつつそれぞれの問題に答えようとする設計態度には好感が持てた。

一方、学年、年齢のまとまったクラスターから全体に繋げる作り方をしているなど、小学校や中学校を作るときのノウハウがそのまま提示されている印象も受ける。特別支援学校は、実際には様々な障がいのある子ども達が利用する空間であり、対応に不安が感じられた。振動や騒音に対しても慎重な配慮が必要である施設型であるために、木造とRCの構成についても懸念が指摘された。

スクールバスの駐車場の広さ、体育館、プール、宿舎が密集しているエリアの環境、既存の建物と第一期で建てる部分との相性についても、注意が喚起された。スクールバスの発着管理（先生方の使い勝手）にも難点を指摘する声が上がられた。

【参加者3】H者

委員意見

アクティビティノートという方法が有効な設計ツールであることには同意したい。ワークショップだけでは吸い上げられないニーズをくみ取るやり方の導入は面白いと思うが、具体的な展開イメージが提示されていないために懸念も残された。

提案書が一般的な内容に留まっていると感じる。特別支援学校は、就労継続支援事業所とは異なって、毎年クラスが変わる流動性を有する施設型であり、そうしたニーズにどう対応できるのかという点についても懸念が残った。

【参加者4】I者

委員意見

特別支援学校の実情を丁寧にスタディし、そこに寄り添おうとする態度が感じられる提案である。印象的なみんなの広場を中核として、地域のシンボルになるような建物を意識しているとも感じたが、本施設にそのようなシンボル性が必要なのかについてはさらなる議論が必要であろう。特にみんなの広場のリングについては、日常生活動線の中への組み込みが、十分に必然性を獲得できていない印象を受けた。

また、中学部の教室配置は見え方としては良いと思うが、子どもの声が全部聞こえてしまうため、授業に支障が生じる可能性も存在する。また、既存校舎との関係性についてももう少し踏み込んだ配慮が必要であるように感じた。

【参加者5】 J者	
委員意見	<p>浸水対策について考慮されている他、地元と連携して長野県産の木材を使うことに対する配慮もなされている。松本の気候についても雪や空気の抜け感などを考慮しているなど丁寧に考えられており、好感が持てた。</p> <p>一方で、二期まで同じ空間型を繰り返す手法が、全体として単調さを招きかねないことや、子どもたちのための小さな居場所もイメージしにくいことなどが気になった。カーテンによる滑らかな仕切りなど、子どもの目線で考えるという部分を強調しているが、特別支援学校において、慎重な配慮が必要な音はコントロール出来ないため、実際の子どもの特性と空間の作り方が噛み合っていない印象を受けた。</p> <p>一見して幼稚園のような空間提案であり、様々な障がいをもつ小学生から高校生までの学びを保障する特別支援学校の設計における対応力は未知数である。</p>
【参加者6】 K者	
委員意見	<p>今井小学校との関係、寄宿舍・校舎・プールの考え方がしっかり書かれており、好感が持てる。寄宿舍は親と一緒に住めない子ども達が、かえって一人暮らしで素敵な部屋で明るい気持ちになってくれるような空間提案であるとも言える。全体に ICT や GIGA との連携もイメージしやすい構成となっている。</p> <p>一方で、南側に施設が集中しており畑も減っている、「ブロードウェイ」という部分が機能するかが気になるなど、提案された空間の雰囲気が、本校がこれまでこの場所に紡いできた風景に合うかについては懸念が提示された。ブロードウェイの二層分の吹き抜けは、ランニングコストなど、現実性の精査が必要と思われる。</p> <p>その他、体育館と職員室とマルチメディア室の配置など、説明が必要な箇所も存在する。学年が上がるにつれて活動範囲は広くなることから求められる屋外との関係性についても、特別教室から中庭が遠いなど調整が必要となる箇所が散見される。</p>
【参加者7】 L者	
委員意見	<p>小中高でクラスターを分けて、全体をある程度の年齢の集団で小分けにしている。その中にいくつかの大きさの違う空間や、オープンスペースの影で死角を作るなど、子ども達が自分の好きな場所を見つけやすくする仕掛けがあり評価できる。また、5段階のエレメントの効果についてはさらなる精査が必要であるが、個の勉強スペースを確保しやすい点などは自閉症の子どもにも有効性があると思われる。平面計画では多様な場所が確保されるなどソフトとハードを合わせた丁寧な対応が図られている。</p> <p>一方で、全体として商業建築的なイメージとなっている、円環が多層的につながる複雑な空間構成が子どもの特性に本当に合致するかなど、懸念も存在する。仮設校舎なしということについてもコストの部分も踏まえた検討が求められる。また、RC+S造となっている構造計画についても踏み込んだ説明が必要であろう。</p>
【参加者8】 M者	
委員意見	<p>求められている教育効果と提案された空間に、ある種の関係があることは見いだせたが、それがNSDの期待するレベルに到達しているかを確認することが難しかった。</p> <p>魅力的な空間は、美術館や図書館には適合するかもしれないが、特別支援学校としては熟慮が必要であろう。特に知的障がいの子たちの実際の動きと壁のアイデアとの関係については、慎重な検証が必要と思われる。ひとつの強いアイデアから離れられない窮屈さがあるという言い過ぎだろうか。第一期のみならず、第二期も同じ原則で展開するには説得力が不足しているように思われる。</p>

【参加者9】N者	
委員意見	<p>デジタルサイネージと建物と調和に関する可能性が感じられるなど、ICTの活用が考慮されている。</p> <p>一方で、提案の強さについては、より踏み込んだ提示が必要であるように思われる。具体的な空間提案が少なく、この場所独自の空間の提示も読み取りにくい。知的障がいの子どもの生活のどこに比重を置こうとしているのかわかり難いなど、特別支援学校の特殊性に配慮したアピールがなされていない点も残念であった。</p>
【参加者10】O者	
委員意見	<p>特別支援学校に求められる空間という点において、丁寧な提示がなされている提案であった。多様なスケールの空間が用意されている他、「まちのみち」の考え方など、骨格がありながら、様々な対応が示されている。開かれた空間と閉じられた空間があって、その中で子ども達の学びを展開するイメージもわかりやすい。木造構造の壁を細かくちりばめてそれらを実現するなど、構造と計画の統合も配慮されている。</p> <p>その一方で、これだけの壁をちりばめるなら、教室の隣に小さな部屋があっても良いのではないかなど、障がいのある子たちへのより細かな対応が求められるようにも思われる。また、セキュリティや特別支援学校の特殊性などから、さらなる検討が求められる点も多い。例えば、車いすの生徒が雨に濡れやすい箇所のアクセスをどう考えているかなど、特別支援学校における先生の使い勝手について、配慮がより必要となる点が存在する。さらには、屋根の連なりや隣棟間隔の狭さ、法規的な対応（延焼ライン）など、対応が必要な点や箇所が多いことも気がかりである。</p>
○審議経過	
発言者	内 容
委員長	・議論は尽くされたでしょうか。二次に残したい案の投票に移行してよろしいか。
委員	・異議なし
○第1回投票<1人3票>	
投票数	該当者数
6	1者
5	1者
4	
3	2者
2	
1	1者
0	5者
○審議経過	
発言者	内 容
委員審議	・審査委員全員が推している6票獲得者は二次審査対象者としたい。
委員長	・5票獲得者について、投票していない委員で意見があればお願いしたい。

委員意見	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校の先生たちが苦勞するポイントについて懸念がある。 ・2次審査で参加者に確認するという点でよいのではないか。
委員審議	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を踏まえ、5票獲得者も二次審査対象者とする。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・3票獲得者について、意見をお願いしたい。
委員意見	<ul style="list-style-type: none"> ・南側に建物が集中しており影を敷地に落とすことになる。動線などについて、二次で確認したい。 ・特別支援学校の質を通常の学校の提案と離れて考えられているか確認ができなかった。 ・FLAの廊下形状について、2次対象となるのであれば確認したい。
委員審議	<ul style="list-style-type: none"> ・3票獲得者も二次審査対象者としてほしい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・1票獲得者について、意見をお願いしたい。 ・その他審議が必要な者についても、意見をお願いしたい。
委員審議	<ul style="list-style-type: none"> ・寄宿舎の位置について疑問。 ・職員室は個人情報を保管しているので、フルオープンはない。 ・1票獲得の1者と0票の者から1者候補に挙がったため、2者で投票を実施する。各委員0票から2票までで投票いただきたい。

○第2回投票<1人2票まで>

投票数	該当者数
6～4	
3	1者
2	
1	1者
0	

○審議経過

発言者	内 容
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・3票を得票した者を二次審査対象者としてよいか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・異議なし
委員長	<p>本日の一次審査では、次の5者（五十音・アルファベット順）を通過とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社アトリエ・アンド・アイ・金子敬輔建築設計事務所・株式会社MMAAA設計共同体 ・コンテンポラリーズ+第一設計共同体 ・株式会社古森弘一建築設計事務所 ・山田建築設計室+スタジオトポス+ナカムラアーキスタジオ共同企業体 ・SALHAUS・仲建築設計スタジオ共同企業体